

## 学校評価（自己評価）

評価基準  
 4:達成されている  
 3:どちらかといえば達成されている  
 2:どちらかといえば達成されていない  
 1:達成されていない

判定  
 A:3.2以上(達成されている)  
 B:2.5以上3.2未満(おおむね達成されている)  
 C:2.5未満(不十分である)

| 分掌    | 番号 | 評価の観点               | 評価項目                              | 具体的施策・取り組み  | 対象   | 中間評価 |      | 比率(%) |      |      |     |      | 中間評価の分析と改善策  |   | 年度評価 |      | 比率(%) |      |      |     |  | 成果・課題  | 改善・向上策 |
|-------|----|---------------------|-----------------------------------|---|------|------|------|-------|------|------|-----|------|--|---|------|------|-------|------|------|-----|--|--|--------|
|       |    |                     |                                   |   |      | 判定   |      | 4     | 3    | 2    | 1   | 分らない | 判定   |   | 4    | 3    | 2     | 1    | 分らない |     |  |  |        |
| 総務部   | 1  | 開かれた学校づくり           | 保護者、地域の方々と連携して学校行事の充実を図る。         | 学校からの情報発信を積極的に行い、PTAや地域社会と連携して学校行事の活性化を図る。また、中高連絡会やオープンハイスクールを開催し、中学校訪問を積極的に行うことで、中学校に対しても情報発信を図る。  | 教員目標 | B    | 3.14 | 21.4  | 71.4 | 7.1  | 0.0 | 0.0  | 今年度は意識的に地元自治会と連携を密にし、学校行事への参加を呼び掛けており、2学期からも地元自治会への働きかけを続けたい。また、PTA役員会等を通して、保護者にも活動を発信できるようしていきたい。中間評価では概ね目標を達成できていると判断できる。      | A | 3.62 | 57.1 | 35.7  | 0.0  | 0.0  | 7.1 | 学校説明会を2回実施した結果、中学3年生の参加だけでなく、多くの中学校教員に参加していただいた。文化祭をはじめ、自治会と連携した学校行事も多く実施することができ、行事内容も充実したものとなった。  | 今年度から実施しているブログとも連携して、学校行事の様子を発信していきたい。学校外で行われる発表会や地域交流事業への参加を通して、さらに情報発信に努めたい。                             |        |
|       | 2  | 危機管理体制の整備           | 緊急時の対応をマニュアルにまとめ、より実践的な防災教育を推進する。 | 火災や地震、津波等の緊急事態が発生した際の対応をまとめたマニュアルを検討、作成する。また、防災教育では、講演会の開催や避難訓練、体験学習等を通して、緊急時の対応を全校生徒、全職員が共通理解できるよう努める。   | 教員目標 | B    | 2.86 | 14.3  | 57.1 | 28.6 | 0.0 | 0.0  | 防災に対する取り組みはまだ多くの改善点があると感じる。体験活動だけでなく、講話等を通して災害の当事者意識を持たせ、生徒の防災に関する見識を広げ、いざというとき活用できるよう指導していきたい。                                  | B | 3.08 | 21.4 | 57.1  | 14.3 | 0.0  | 7.1 | さまざまな状況下での避難訓練や起震車体験、心肺蘇生法を交えた防災行事を実施した。また、緊急時における職員の対応を見直し、防災マニュアルの検討を図った。  | 相生消防署とも連携しながら防災マニュアルの検討、改善を進めていく。また、避難訓練を通して、災害の際に生徒が自主的に状況を判断し、行動できるようにしていきたい。                            |        |
| 教務部   | 3  | 学びに向かう力の育成          | 生徒が自ら進んで学ぶ環境づくりを推進する。             | ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して、「わかる授業」を実践し、生徒の関心・意欲を高める。また、定期考査前に「学びたいむ（地域未来塾）」を実施し、生徒が学習しやすい環境づくりを推進する。  | 教員目標 | B    | 3.07 | 21.4  | 64.3 | 14.3 | 0.0 | 0.0  | 定時制に入学してくる生徒たちの生きづらさや困り感をくみ取って、生徒にとってわかりやすい授業展開をしていく必要がある。「学びたいむ」は自ら進んで学ぶことを目的としているため、今後も強制的に参加させることなく、生徒たちの自主的な活動を促すための方策を考えたい。 | A | 3.38 | 35.7 | 57.1  | 0.0  | 0.0  | 7.1 | (生徒の)学びに向かう力を育成するために、(教員が)授業改善や学びたいむ(地域未来塾)の設置、新聞閲覧・読書時間の確保、LHRにおける担任講話、全校集会における各部からの講話など、生徒のモチベーションを高める工夫を追求することができた。   | 発達障害等について理解している先生方が多いが、どこまで生徒側に歩み寄って指導すべきなのかを判断するのが難しい状況である。   |        |
|       | 4  | 知・徳・体 にわたる「生きる力」の育成 | 学力・社会人基礎力の向上を図る。                  | 教科教育に限らず、学校生活のあらゆる場면을指導のチャンスととらえ、丁寧な指導、繰り返しの指導を心がける。また、生徒の学力定着に向けて授業改善の工夫を行い、実践的指導力の向上に努める。   | 教員目標 | B    | 2.93 | 7.1   | 78.6 | 14.3 | 0.0 | 0.0  | 教員が一定の基準を守って指導していないといけな。   | A | 3.38 | 35.7 | 57.1  | 0.0  | 0.0  | 7.1 | 授業改善だけでなく、各担任による日々の学級通信や計算・語彙力向上ドリル等の活用で、学力・社会人基礎力の向上を図ることができた。  | 今後も学校生活のあらゆる場면을指導のチャンスととらえ、全職員で協力して生徒と向き合う必要がある。   |        |
| 生徒指導部 | 5  | いじめの未然防止            | いじめを未然に防止するため組織的な活動を充実させる。        | 学校いじめ防止基本方針に基づき、定期的なアンケート調査や教育相談の実施等により、いじめの積極的な認知に努める。いじめ対応マニュアルを活用して、未然防止、早期発見・早期対応における組織的な対応の充実や研修会を通じて教職員の対応能力向上を図るとともに、家庭や地域、関係機関等と連携して取り組む。 | 教員目標 | A    | 3.43 | 42.9  | 57.1 | 0.0  | 0.0 | 0.0  | 事前研修会を行い、いじめの積極的な認知を各教員に周知し、組織的な対応の充実、対応能力向上を図った。保護者への密な連絡、登下校で使用する駅のJR職員との深い連携等を通じて、様々な視点から生徒の実態把握、情報収集に努めた。                    | A | 3.43 | 42.9 | 57.1  | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 事前研修会の効果もあり、いじめの積極的な認知、未然防止に取り組めた。また保護者への密な連絡が非常に効果が高いと判断できる。JR職員、地域の方、警察との日頃から関わる事により様々な目が生徒達に向けられて、生徒の実態把握、情報収集に繋がった。非常勤講師、キャンパスカウンセラーとの情報共有、生徒指導上の共通理解を十分に行うことが課題である。 | 常勤の教員、非常勤講師、キャンパスカウンセラー、生徒に関わる全ての人に報告・連絡・相談の徹底を図るため、日頃のコミュニケーション、行事等を検討する必要がある。チーム学校としてのチーム生徒指導を徹底する必要がある。 |        |
|       | 6  | 生活習慣及び社会規範の確立       | 礼儀・公衆マナーの向上を図る。                   | あらゆる場面での挨拶、端正な身だしなみ、正しい言葉遣いを意識させ、自ら修正できる習慣を身に付けさせる。また、公衆道徳（マナー・エチケット・交通マナー）においては、学校生活を通して指導し、社会で通用する公衆道徳を身に付けさせる。特に、話を聞く態度に問題のある生徒に対して個別指導を行なう。   | 生徒目標 | B    | 3.07 | 28.6  | 50.0 | 21.4 | 0.0 | 0.0  | 2の評価があるとおおり、まだ挨拶、端正な身だしなみ、正しい言葉遣いができない生徒が多数いる。今後、自ら修正できる自己指導能力向上を狙う指導をする必要がある。話を聞く態度に問題のある生徒は減少傾向ではあるものの存在する。個別指導を続けていき改善を促したい。  | A | 3.21 | 28.6 | 64.3  | 7.1  | 0.0  | 0.0 | 挨拶等の礼儀、公衆マナー、傾聴の態度、自己指導能力の向上がみられる。今後も軽微な違反でも個別指導、家庭連絡を続けて更なる向上を促したい。   | 発達障害等で指導の意味がわからない生徒に対しては、丁寧な指導、保健部、キャンパスカウンセラー等を通じてできるように、あきらめずに指導を継続する。                                   |        |
|       | 7  | 生徒の自主・自立を促す指導の工夫    | 生徒が主体的に活動し、生きる力を育む教育活動を推進する。      | 生徒中心の学校行事の企画・運営ができるように支援を行い、生徒会活動や部活動に、生徒が積極的に参加するように働きかける。   | 生徒目標 | A    | 3.21 | 28.6  | 64.3 | 7.1  | 0.0 | 0.0  | 学校行事の企画・運営について、生徒は主体的に活動はしている。部活動の参加は全生徒が積極的に参加しているとは言いがたいため、評価が2となっていると思われる。今後参加を促していきたい。                                       | A | 3.36 | 35.7 | 64.3  | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 生徒中心の学校行事の企画・運営ができてきている。部活動に加入して活動している生徒は減少傾向である。今後は部活動の在り方、部活動の種類等を研究して、積極的な参加を促したい。  | 生徒会行事と同様に既存の部活動の在り方、クラブ数を見直し、積極的な参加を促していく必要がある。  |        |

| 分掌      | 番号 | 評価の観点      | 評価項目  | 具体的施策・取り組み   | 対象   | 中間評価 |      | 比率(%) |      |      |      |     | 中間評価の分析と改善策   | 年度評価 |      | 比率(%) |      |      |     |     | 成果・課題  | 改善・向上策   |
|---------|----|------------|---|--|------|------|------|-------|------|------|------|-----|---|------|------|-------|------|------|-----|-----|--|--|
|         |    |            |   |  |      | 判定   | 3.29 | 28.6  | 71.4 | 0.0  | 0.0  | 0.0 |   | 判定   | 3.31 | 28.6  | 64.3 | 0.0  | 0.0 | 7.1 |  |  |
|         |    |            |   |  |      |      |      |       |      |      |      |     |   |      |      |       |      |      |     |     |  |  |
| 進路指導部   | 8  | 進路指導の充実    | 生徒の能力・適正等を踏まえた進路指導を行う。                      | 三者面談や進路面談、アンケートを通して定時制ならではの「働き学ぶ」ことをより一層推進する。就業体験事業等を通して生徒が自らの能力や適性に合った進路を考えられるよう取り組む。                   | 教員目標 | A    | 3.29 | 28.6  | 71.4 | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 中間評価に関しては、概ね3、4の評価であり、日々の取り組みが一定の評価を得ていると考えられる。しかし、ほとんどが3の評価であることを鑑みると、まだ不十分な部分があるのが現状である。下級生についての試みがまだ不十分であることが考えられるので、下級生に対するアンケートや面談などを今後拡充改善していきたい。 | A    | 3.31 | 28.6  | 64.3 | 0.0  | 0.0 | 7.1 | 中間評価以降も概ね3、4と評価をされており、日々の取り組みについては成果がみられる。しかし、中間評価より分からないという回答が増え、取り組みの説明不足を感じる結果になった。中間報告でもあった下級生に対しての取り組みや他の分掌の職員にも広く理解を得られるようにしたい。                  | 今後就業体験事業を多数の生徒に行うことが最優先である。三修制の必修の生徒だけでなく、未就業者などを積極的に参加させたい。また、受け入れ先についても毎年新しい職種を開拓しているが今後も引き続き開拓していく。加えて、全体の就業人数は、横ばいであるので「働き学ぶ」という意義を理解させ、就業を推進していきたい。 |
|         | 9  | キャリア意識の育成  | 望ましい勤労観や職業観、また将来への目標を持たせ、その実現のために努力する態度を養う。 | キャリアガイダンスや建設業魅力説明会等講演会を通して生徒の自らのキャリアに対する考えを深めさせる。卒業後の進路先に関わらず、自らのキャリアを形成していく態度を身につけさせる。                  | 教員目標 | A    | 3.21 | 28.6  | 64.3 | 7.1  | 0.0  | 0.0 | 中間評価に関しては、概ね3、4の評価が多くあり、日々の取り組みが一定の評価を得ていると考えられる。改善策について、卒業年度だけを力を入れて指導するのではなく、入学後から卒業までの系統的なキャリア教育を今後拡充する必要がある。具体的には進路実現に向けての進路HRの計画に力を入れたい。           | A    | 3.46 | 42.9  | 50.0 | 0.0  | 0.0 | 7.1 | 中間評価より4の回答者が増え、キャリア意識の向上については改善がみられた。例年、卒業年度生については新しい行事や取り組み等を行ってきたが、その結果が表れている。しかし、下級生についてはやはり継続的な進路指導をするべきであり、学級担任だけに任せず、生徒が主体的に考えられるような行事等を考えていきたい。 | まだ未実施ではあるが、例年行ってきたキャリアガイダンスに変えて卒業生を囲む会を実施するよう計画している。これまで講演会等で様々な職種の方にお話しただいてきたが、生徒とは年齢も経験も違い、生徒には教育効果が薄い場合が多い。年齢や経験に近い卒業生から何か感じることを期待し、恒例行事にしていきたい。      |
| 保健部     | 10 | 健康・安全教育の推進 | 生涯にわたり主体的に健康で安全な生活をおくることができる能力・態度・習慣を培う。    | 健康診断の結果を通して、自分自身の健康観を深めさせる。健康とはなにか、さらには「今ある病気を治す」ことだけではなく、「予防医学」という観点からも考えられるようにする。                      | 生徒目標 | B    | 3.00 | 21.4  | 64.3 | 7.1  | 7.1  | 0.0 | 健康診断前、4年生及び3年生三修制の生徒に対し、健康診断の大切さなどを説明した。その結果、治療勧告書配布後の病院受診率が伸びた。しかし、説明をしていない他学年の受診率が低いため、他学年へのアプローチも必要であるとする。   | B    | 3.08 | 14.3  | 71.4 | 7.1  | 0.0 | 7.1 | 将来の健康を考える力や、疾病に関する知識が乏しいため、「疾病を予防する」という意識が低い。自分の身に起こりうる疾病を考える機会を持つことが必要である。  | 病院受診を促すタイミング(治療勧告書の郵送時や夏季休暇前など)を決めて、保健指導をする必要がある。身近な疾病予防の方法等、健康について考える行事を考えていきたい。  |
|         | 11 | 教育相談活動の充実  | 教員同士だけでなく、キャンパスカウンセラーや保護者との連携を強化する。         | キャンパスカウンセリングの対象が、生徒や教員だけでなく、保護者も含まれていることを周知徹底する。生徒達が爽りある高校生活を送ることができるよう、家庭と学校、そしてカウンセラーが関わり合っていくよう働きかける。 | 教員目標 | B    | 3.14 | 21.4  | 71.4 | 7.1  | 0.0  | 0.0 | キャンパスカウンセリングの利用状況は、主に生徒のみ。教員や保護者にも利用してもらえるよう、周知の方法を工夫する必要がある。   | A    | 3.23 | 28.6  | 57.1 | 7.1  | 0.0 | 7.1 | 生徒への周知は、担任や保健部から声をかけているが、保護者への周知が足りなかった。   | 何かがあつてからカウンセリングを利用するのではなく、もっと身近に、気軽に相談できる場所であることを、生徒及び保護者に周知していきたい。  |
| 図書情報部   | 12 | 読書活動の充実    | 新聞や本を読むことで、言語に関する能力の向上を図る。                  | 新聞をホームルーム教室に毎日おくことで、読書習慣を身に付けさせる。また、週に1度は新聞を読んだ感想を書かせ、自分の考えをまとめさせ、思考力、表現力を育成する。                          | 生徒目標 | B    | 3.14 | 35.7  | 50.0 | 7.1  | 7.1  | 0.0 | 新聞をホームルーム教室に毎日おき、週に1度は新聞閲覧をさせ、活字と接することで「読む」ことに対する嫌悪感が弱まりつつある。社会の動きに興味を持たせると共に、自分の意見をしっかりとまとめられるように今後も指導を行う。   | A    | 3.31 | 35.7  | 50.0 | 7.1  | 0.0 | 7.1 | 新聞をホームルーム教室に毎日おき、2学期までは週に1度は新聞閲覧をさせた。3学期からは読書時間を設けて活字と接することで「読む」ことに親しみを感じさせることができつつある。   | 新聞や書籍等がもっと活用できるように発表や意見交換の場を設定するなどの工夫を通して、社会の動きに興味を持たせていく。今後も自分の意見をしっかりと持てるように継続的に指導を行う。   |
|         | 13 | 広報活動の充実    | ホームページにおいて、リンク切れがなく、最新情報を発信する。              | 学校だよりを作成し、ホームページを通じて広報する。また、学校行事終了後、ブログにより、すばやく行事の様子を発信する。   | 教員目標 | B    | 3.07 | 28.6  | 50.0 | 21.4 | 0.0  | 0.0 | 本年度から、学年ブログを立ち上げ、1年生から4年生が約1週間ごとに順番にブログ原稿を作成しており、生徒の主体的な活動が行われている。2学期以降もブログは、外部に向けてのメッセージであるという自覚を持たせ、内容の充実にも努めたい。学校だよりについては1ヶ月ごとに作成できている。              | A    | 3.38 | 35.7  | 57.1 | 0.0  | 0.0 | 7.1 | 本年度から立ち上げられた学年ブログは、各学年が毎週自主的に原稿を作成し更新できている。学校だよりについても充実した内容で1ヶ月ごとに作成し、本校の取り組みを広報することができた。  | ブログが、外部に向けてのメッセージであるという自覚を生徒に強く持たせ、より主体的に活動できるよう努めたい。  |
| 人権教育委員会 | 14 | 人権意識の高揚を図る | 人権についての基本的な理解を深めさせ、人権意識の高揚を図る。              | 生徒に授業やホームルーム活動、学校行事を通して、他者を思いやる豊かな心を育み、人権意識の高揚を図る。また、これからの情報社会を健全に生きるために、情報モラル教育を実施する。                   | 教員目標 | C    | 2.43 | 14.3  | 35.7 | 28.6 | 21.4 | 0.0 | 人権ホームルームの時間が学校行事等により、計画的に実施することができなかった。学校行事として、講師を招き情報モラルの講演会を実施し、SNSに投稿する場合の注意事項や軽率な投稿が人権侵害につながることについて学習した。2学期以降は、他者を思いやる心を育み、人権意識を高揚させる取り組みを実施していく。   | B    | 2.79 | 21.4  | 42.9 | 28.6 | 7.1 | 0.0 | 人権ホームルームの時間を計画的に実施することができなかった。情報モラルの講演会を実施し、SNSにおける人権侵害について学習できた。教師自身は研修を通して障害者に対する理解と人権意識の高揚が図れた。   | 人権ホームルームを計画的に実施すると同時に、日々の学校生活における人権への配慮を指導していく必要がある。また、職員研修を等して人権意識を一層高めていきたい。   |

| 分掌  | 番号 | 評価の観点              | 評価項目                       | 具体的施策・取り組み  | 対象   | 中間評価 |      | 比率(%) |      |      |     |      | 中間評価の分析と改善策   | 年度評価 |      | 比率(%) |      |      |     |      | 成果・課題  | 改善・向上策  |
|-----|----|--------------------|----------------------------|---|------|------|------|-------|------|------|-----|------|---|------|------|-------|------|------|-----|------|--|---|
|     |    |                    |                            |   |      | 判定   |      | 4     | 3    | 2    | 1   | 分らない |   | 判定   |      | 4     | 3    | 2    | 1   | 分らない |  |   |
| 機械科 | 15 | 資格・検定の取得           | 資格・検定の取得率の向上を図る。           | 様々な資格・検定があることを紹介し、多くの資格・検定に挑戦させる。また、授業や補習等の年間を通した指導により、資格・検定の合格率を向上させる。                                 | 生徒目標 | B    | 3.14 | 28.6  | 57.1 | 14.3 | 0.0 | 0.0  | 授業やSHR・LHRなどで声掛けを行うことで、資格・検定に自ら挑戦しようとする生徒が増えてきた。さらに、目標を持って取り組めるよう、掲示物などを工夫していきたい。また、合格率を向上させるために、引き続き補習など年間を通した指導を行ってきたい。 | A    | 3.64 | 64.3  | 35.7 | 0.0  | 0.0 | 0.0  | 多くの資格・検定を紹介してきたことで、新たな資格・検定にチャレンジする生徒も増えた。しかし、資格・検定合格に向けて、自ら計画を立てて、実行するのが難しい生徒も多く、合格率はあまり変わっていない。  | 現時点では、生徒自ら、計画を立てて、実行するのは難しいため、補習等年間を通した指導を行うことで、合格率の向上を目指したい。また、様々な学習方法も指導し、自ら資格・検定に向けた学習ができるよう取り組んでいきたい。                       |
|     | 16 | 学ぶ意欲を高める授業づくり      | 生徒の学習意欲を高めさせる              | 外部講師を招聘し、現場での技術を体験させて、地域・学校に貢献するものづくりを行うことで、達成感を味わわせる。  | 教員目標 | B    | 3.07 | 21.4  | 71.4 | 0.0  | 7.1 | 0.0  | 2学期以降には、より高度な溶接技術や旋盤技術、CAD技術を学ぶため、多くの外部講師を招聘する予定となっている。また、実習・課題研究では、技術を向上させるだけでなく、さらに意欲的に取り組めるように実習内容を工夫していきたい。           | A    | 3.57 | 57.1  | 42.9 | 0.0  | 0.0 | 0.0  | 今年度は、多くの外部講師を招聘したことで、より高度な技術を学ばせることができた。また、課題研究等で、学校・地域に貢献するものづくりを行うことで、多くの達成感を味わわせることができた。  | 教員も技術向上を目指し、日々、研鑽に取り組んでいく。そうすることで、生徒により多くの技術やコツを教えることができ、生徒の意欲を向上させたい。  |
| 学年部 | 17 | 自主・自立の促進           | 基本的な生活習慣を確立させる。            | 計画性を持って学校・仕事・部活動等に励み、規則正しい一日の生活サイクルを確立できるよう支援する。また、日々のSHRでの連絡は丁寧に行い、未就業者に対しては、働きながら学ぶことを推奨する。           | 教員目標 | B    | 3.14 | 21.4  | 71.4 | 7.1  | 0.0 | 0.0  | 生徒会活動や部活動等で、担当者・生徒・担任が密に連携する必要がある。未就業者については、生徒の意欲・勇気、保護者の理解等多くの要素が関わるので非常に難しいが指導を継続したい。                                   | A    | 3.36 | 35.7  | 64.3 | 0.0  | 0.0 | 0.0  | 基本的な生活習慣を確立させるために、学校生活のあらゆる場面で指導のチャンスととらえ、きめ細かい指導を行うことができた。  | 発達障害等の生徒にとって計画性を持って生活することは難しいが、生徒に困り感について考えさせ、その生徒にあった解決策を見つけていけるようにしたい。  |
|     | 18 | 集団で行動する力の育成        | 集団生活における規範意識の向上を図る。        | アサーティブなコミュニケーションを心がけることにより、自分も他者も大切にできる気持ちや、お互いを尊重しあう関係を築けるようにする。また、生徒が自ら作成した様々な啓発ポスターを通して、規範意識の向上を図る。  | 生徒目標 | B    | 3.07 | 21.4  | 64.3 | 14.3 | 0.0 | 0.0  | 過去3年間、心のサポートシステムによって築き上げてきた内容である。継続して指導し、集団の規範意識をさらに向上させる。  | A    | 3.29 | 35.7  | 57.1 | 7.1  | 0.0 | 0.0  | アサーティブなコミュニケーションが浸透し、生徒間のトラブルは少なくなった。しかし、落ち着いた生徒や場の空気が読めない生徒などが少なからず存在するため、今後も丁寧な指導を心掛けたい。   | 心のサポートシステムによる社会人基礎力の養成について、各学年での段階的な指導計画を再検討する必要がある。(第1学年ではこんなことができるようにしたいので、こんな取組を行うなど)  |
|     | 19 | 将来の生き方・働き方を考える力の育成 | 進路実現に向けた意識の向上と実力の育成を図る。    | 特別活動やキャリア教育、学校生活のあらゆる場面で指導のチャンスととらえ、学力だけでなく社会人基礎力を身につけ、進路実現を目指す。また、能力定着のため、日々復習を行うことやメモを取る習慣などを身につけさせる。 | 教員目標 | B    | 3.07 | 28.6  | 50.0 | 21.4 | 0.0 | 0.0  | 心のサポートシステムや進路指導部、生徒指導部と連携して、社会人基礎力の向上を目指していきたい。   | A    | 3.29 | 28.6  | 71.4 | 0.0  | 0.0 | 0.0  | 就職ガイダンス等の学校行事やホームルーム活動を通し、将来の進路を見据えた行動の必要性について指導を行った。また、CG(異年齢間交流)事業では、3・4年生が8月に保育園を訪れ、園児や職員との交流により、コミュニケーション能力の向上が図れた。また、資格取得にも挑戦する生徒が増加した。 | 進路指導部、生徒指導部と連携し、学校行事やホームルーム活動などのあらゆる機会を通して、社会人基礎力(コミュニケーション能力、チームで働く力等)を身に付けさせる取り組みを行う。また、生徒の自主的な学習活動をさらに促し、基礎学力を向上させ、資格を取得させる。 |
|     | 20 | 社会へ積極的に参画する態度の育成   | 言語活動の充実とコミュニケーション能力の向上を図る。 | 文字や活字とふれあうことにより、社会への興味・関心や読解力、表現力等を身につけ、生徒が自ら社会に参画していく態度を養成する。さらに、主体的に取り組む姿勢を身につけ、課題発見力を伸ばす。            | 生徒目標 | B    | 3.00 | 21.4  | 57.1 | 21.4 | 0.0 | 0.0  | 新聞閲覧が中心となるが、各教科でも言語活動の充実やコミュニケーション能力が向上する授業の工夫を目指していきたい。  | B    | 3.14 | 28.6  | 57.1 | 14.3 | 0.0 | 0.0  | 社会への興味・関心や読解については、まずまずの成果が得られたが、表現については不十分である。意見を発表する場を設けるなど、表現力を高める機会を設けたい。   | 発達障害等で字が読みづらいなど、新聞閲覧や読書活動が苦手な生徒への対応が難しい。新聞を拡大コピーするなど工夫したい。  |

【自己評価について、学校評議員のご意見】

| 項目    | ご意見  |
|-------|--|
| 1     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ていじ祭において、PTAの参加協力がよかった。思った以上に参加者が多く、雰囲気もよかった。</li> <li>・学校行事に生徒だけでなく、地域との連携事業として参加をしていただいていることは高く評価できる。</li> </ul>   |
| 4     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科教育に限らず、学校生活、社会人基礎力を指導してもらえれば、保護者としてはうれしいことです。社会に出れば、年齢など関係なく、いろいろなことで責任を負います。対応力なども勉強してもらいたい。</li> </ul>   |
| 6     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーは、確実に向上している。自信を持って、今後とも継続してほしい。</li> </ul>  |
| 8     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導、就業体験事業は、充実していると思う。今後も引き続きお願いしたい。</li> </ul>   |
| 12・20 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書、新聞」は素晴らしい取り組みです。コミュニケーション能力の向上が社会人として生きていく財産です。ぜひ継続、充実をお願いしたい。</li> <li>・読書時間を設けるなど、「読む」ことへの関心が高められていることは大変よい取り組みです。</li> </ul>  |
| 13    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞を読んで活字と接することは賛成です。一步踏み込んでディスカッションできるようになればいいと思う。</li> </ul>  |
| 14    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権感覚の向上が、生徒達への接し方の変化となり、一人ひとりの生徒の心を育て、よりよい学校生活(仲間意識、自己肯定感、いじめゼロ)の提供につながると考える。教師集団の1・2の評価はないようにしてほしい。</li> <li>・SNSによる生徒指導も増えている報告を受けています。人権意識を高める取組みは今後も必要です。</li> <li>・人権教育については、校内ではなかなか機会がないと思うので、校外たとえば市の人権のつどいなどに参加してほしい。</li> </ul>  |
| 15    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成果・課題」の項目で合格率は変わっていないとあるが、4年間のスパンで職業高校としての資格の確保に努力してほしい。そのためには、学力の向上はもちろん、一層の意欲の向上に努め、パフォーマンスのアップが必要不可欠である。</li> </ul>  |
| 16    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得に関しては、生徒が自ら取り組みたいと思うように指導していただいている。これからも資格取得の指導をお願いしたい。</li> <li>・資格取得や検定チャレンジの意欲が高まっていることは素晴らしいことです。また、外部講師を積極的に活用されることは、キャリア教育の一環にもなり大変よい取り組みだと思います。</li> </ul>  |
| 全般    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・20項目の中で、1・2の低い評価がついていない項目が12項目あるのは素晴らしい。「分からない」との項目評価があるのは残念である。</li> <li>・先生方の生徒へのかかわりや熱い思いが自己評価の中に表れ、取り組みの成果は、結果としてでている。</li> <li>・定時制として職員集団が4年間継続して取り組めたら、もっとよい結果が望めるが、年度が変わる度に、多くの職員の入れ替わりがあるので、指導法や経営の維持が困難であろうと推測する。バージョンアップを目指し頑張してほしい。</li> <li>・各項目について、いずれも懇切に、親身に指導されておられると思う。</li> <li>・保護者ならびに生徒のアンケートの結果が示すとおり、この学校に入学して良かったとの回答が得られる事は、日々のご指導の結果によるものと思う。</li> <li>・多感な青少年期において全日制の生徒の皆さんと比べて挫折することも多いのですが、毎日休まずに学校へ通うことが将来につながっていくことと思います。</li> <li>・評価基準のように、1～4で示す事は、難しいのではと考えます。(日々のご指導の結果が一朝一夕でできるものでないと思います。)</li> <li>・すべての項目において、中間評価判定よりも改善しており、先生方の具体的な改善策・向上策が成果につながったのだと思います。今後ともよりよい学校づくりに取り組んでいただきたい。</li> </ul> |